

新品種候補 (2012年1月作成)

研究課題:とうもろこし(サイレージ用)「SL0746」

担当機関:北海道農研 酪農研究領域、上川農試 研究部 地域技術G

協力機関:

1. 来歴

品種名:品種名:SL0746

組合せ:単交配(デント×フリント、構成系統は不明)

育成者:雪印種苗株式会社(平成19年育成、平成21年予備検定試験)

導入者:

登録:なし

2. 特性概要 (標準品種「おおぞら」と比較)

長所は乾雌穂重割合が高く、乾物総収量および推定 TDN 収量がやや多い。短所は特になし。

- 1) 早晚性:絹糸抽出期は3日早く雄穂開花期は1日早い。総体乾物率はやや低い。熟期は“中生の中”に属する。
- 2) 耐倒伏性:並である。
- 3) 発芽・初期生育:発芽期は並、初期生育は並である。
- 4) 収量性・乾物特性:乾物総収量、推定 TDN 収量はやや高い。乾雌穂重割合は高い。
- 5) 形態特性:稈長および着雌穂高は低い。
- 6) 耐病性:すす紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「おおぞら」並である。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く「おおぞら」並である。収穫時の節間空洞や刈り残し個体の萎凋個体率は「おおぞら」よりやや少ない。

表1 生育特性<sup>1)</sup>

場所	品種・系統名	発芽期 (月日)	初期 <sup>2)</sup> 生育 (月日)	絹糸 抽出期 (月日)	稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	倒伏 <sup>3,4)</sup> 個体率 (%)	すす <sup>3,5)</sup> 紋病 1-9甚	黒穂病 <sup>3,6)</sup> 個体率 (%)	収穫時 熟度	有効雌 穂割合 (%)
上川農試	SL0746	5.27	8.0	7.25	287	117	0.5	/	/	黄中-後	100
(3か年)	おおぞら	5.27	7.3	7.29	302	136	2.2	/	/	黄中-後	96
北農研	SL0746	5.25	5.6	7.25	262	107	4.4	1.6	0.0	黄中	100
(3か年)	おおぞら	5.25	5.9	7.28	282	126	1.4	2.1	4.5	黄後	100
平均	SL0746	5.26	6.8	7.25	275	112	2.5	1.6	0.0	黄中-後	100
	おおぞら	5.26	6.6	7.28	292	131	1.8	2.1	4.5	黄中-後	98

注 1) 平成22年~24年の平均値。平均は場所・年次別試験の平均値。

2) 1:極不良~9:極良の評点。

3) 発生の見られた試験の平均。/は発生がなかったことを示す。

4) 倒伏と折損の合計。 5) 1:無~9:甚の評点。

6) 地上部全体での個体率(茎葉に発生したものを含む)。

表2 収量特性<sup>1)</sup>

場所	品種・系統名	10a当たり収量(kg)								乾物率(%)			乾雌穂重割合(%)	乾物中 <sup>2)</sup> 推定TDN(%)
		生総重	左比	乾物			左比	推定 <sup>2)</sup>	左比	茎葉	雌穂	総体		
				茎葉	雌穂	総重								
上川農試	SL0746	6367	107	1065	1145	2209	105	1593	107	23.5	61.9	34.7	52.2	72.2
(3か年)	おおぞら	5955	100	1113	981	2094	100	1482	100	25.9	59.0	35.2	47.0	70.8
北農研	SL0746	6717	114	928	1055	1983	101	1437	101	18.9	58.1	29.6	53.3	72.5
(3か年)	おおぞら	5918	100	945	1024	1969	100	1420	100	22.8	58.9	33.4	52.0	72.1
平均	SL0746	6542	110	996	1100	2096	103	1515	104	21.2	60.0	32.1	52.8	72.4
	おおぞら	5937	100	1029	1002	2031	100	1451	100	24.4	58.9	34.3	49.6	71.5

注 1) 平成22年～24年の平均値。平均は場所・年次別試験の平均値。

2) 新得方式(推定TDN収量=乾物茎葉収量×0.582+乾物雌穂収量×0.850)による。

表3 病害抵抗性に関する特性検定試験結果(北海道農研)<sup>1,2)</sup>

品種・系統名	すす紋病			ごま葉枯病		
	H22.9.1	H23.8.29	平均	H23.9.5	H24.9.5	平均
SL0746	5.0	4.0	4.5	3.3	3.0	3.2
おおぞら	5.0	4.0	4.5	3.3	3.0	3.2
キタユタカ	6.0	5.0	5.5	4.0	3.3	3.7

注 1) 病菌接種による罹病程度の評点値(1:無～9:甚)。

2) 接種方法は、すす紋病では粉碎罹病葉懸濁液を感染源品種に接種、ごま葉枯病では粉碎罹病葉懸濁液を全個体に接種。

表4 根腐病の病徴発現程度(平成24年、北農研)

品種・系統名	収穫時		刈残 <sup>1)</sup>
	節間空洞	萎凋症状	萎凋症状
SL0746	0.0	0.0	0.0
おおぞら	5.0	2.6	5.1

注) 単位: 個体率(%)。「節間空洞」は、調査時の切り株断面に空洞があったもの。「萎凋症状」は、地上部が不自然に枯死し、かつ地際節間に空洞があったもの。

1) 刈残し個体。収穫10日後に調査。

### 3. 優良品種に採用しようとする理由

とうもろこしサイレージは高栄養自給粗飼料として高く評価されており、輸入穀物価格高騰の情勢から、その重要性が増している。良質なサイレージ原料を確保するためには、各栽培地帯において安定した生産性を発揮できる優良品種を選定することが重要である。「SL0746」の早晩性は“中生の中”に属し、乾物総収量および推定TDN収量が多く、乾雌穂重割合が高く、対象地域での安定栽培が可能である。

### 4. 普及対象地域および普及見込面積

北部を除く道央地域および道南地域 1200ha

### 5. 配布しうる種子量

30t

### 6. 栽培上の留意点

なし